

中国（珠海市・広州市）との研究・教育実践交流をして

倉田 彩子

（教育実践コース 2 年）

1. はじめに

教職大学院では、「グローバル教育実践演習」の授業の一環で、中国の珠海市と広州市の幼稚園、小・中学校、大学を訪問し、「教育実践発表交流」や「公開授業実践交流」を行ってきた。そこでの経験から価値観が変わったこと、驚いたことなどについて紹介していく。

2. 「教育実践研究発表交流」について ー珠海市 珠海市第十六中学校にてー

私は教育実践研究発表交流で、「自己理解を表出することの意義」をテーマに発表した。中国側からは、家庭での学習時間、得意不得意や成績評価などの多種多様なデータ管理と分析を AI で行う研究や、教科横断的な学習のカリキュラムの研究などの発表があった。どれも、実践が最先端で情報量も非常に多く、自信に満ち溢れた発表で圧倒されるとともに刺激的であった。



3. 「公開授業実践交流」での私の公開授業について ー広州市 京師南奥実験学校にてー



小学校 2 年生のクラスで「日本の昔からの遊びの紹介」の公開授業を行った。“だるまさんが転んだ”をジェスチャー等で説明し、一緒に遊んできた。子ども達の眼差しは真っすぐで、リアクションも良く、非常に盛り上がった。授業終了後は、子ども達からハグしに駆け寄ってきてくれて、非常に人懐っこかった。私は大変感激し、忘れられない授業になった。

4. 「公開授業実践交流」で参観した授業についてー広州市 京師南奥実験学校にてー

小学校 2 年生の英語の授業は、教師の発問から説明に至るまで全てが英語だった。子どもが考えたり、周りと相談したりする活動時間がしっかり確保されており、かつ子どもの思考が重視されていて、非常に計算された素晴らしい授業だった。子ども達も、恥ずかしがらず英語で表現しようとしていて、日ごろからの積み重ねを感じるとともに、恥ずかしがらずに話す英語教育の大切さを実感した。



5. その他

この他、中国を訪問し大変驚いたことがたくさんあるので紹介する。「紙幣硬貨は使わず基本的に電子決済」「車はいわゆる高級車」「レンタルサイクルも QR コードで電子決済」「バイクは電動」「学校がとにかく大きく、北京師範大学珠海分校校区は大学内だけで“街”だった」「京師南奥実験学校の小学校は、低学年の児童全員分のベットルームがあり、お昼寝の時間がある」などなど、衝撃的な光景がたくさんあった。

6. おわりに

この紙面では紹介しきれない驚きと発見がある中国訪問であり、“最先端の教育を行っている”“経済が非常に発展している”と、至るところで感じた。いつも繰り返しの生活をしていると、自分の感覚や価値観が固まってしまう、自分がこれで良いのかもわからなくなっていたと思う。今回、中国を訪問させていただいたことで、自分の教育観や日本の教育システムなどについて、改めて考えることができ、「他を知ること、自分を振り返る」ことができた。大変有意義な経験をする事ができ感謝している。